

きます。

養護学校というものは、障害者にとって有意義なものか否かははつきりとした答えは出ません。でも、障害があると何故に地域の子どもたちと同じ学校に通うことが出来ないのかいつも疑問に思っていました。

私は、小学校入学と同時に、千葉市にある、桜ヶ丘養護学校の寄宿者に入り（入れられた気持ち）、そのまま親と別れて同じ障害を持つ子どもたちとの共同生活が始まりましたが、親と別れるのが辛く他の子らとも馴染めず、泣いてばかりいる子どもでした。ただ障害があると家から学校へ通えないのだろうといつも不思議に思っていました。でも、先輩たちが私とたくさん遊んでくれたことで、親がない寂しさを癒してくれていました。その反対に今で言ういじめもたくさんありました。集団生活からくるストレスでしょうか。障害の軽い人が、重い人をからかう、また、上級生から下級生をからかうたりするのは日常的でした。エスカレートしていじめになってしまったこともあります。それがたまらなく嫌になりました。親恋しさも重なり、家から通える学校を探してもらい、小学校5年から横浜の県立三ツ境養護学校へ転入して、普通校ではないが、家から学校へ通えるようになつたこと

が一番うれしくてしょうがなかつたことを覚えています。まだ小学生だったこともあるので普通校に行けない悲しさはあまり感じませんでした。学校生活が慣れてきたころから、家に帰るといつも一人で学校の友人たちはスクールバスで帰るから、放課後友人たちと過ごすことなんてできないので、家の側の公園で遊ぶ時は、妹と遊ぶしかありませんでした。本来近所の子どもたちと遊ぶのが当たり前のはずが、それが出来なく、私だけが別の世界にいるようでした。

三ツ境は教育よりも訓練中心で少しでも健常者に近づき、高校卒業後は一般企業に就職に力を入れ、出来ないものは作業所だみたい

な所があり、かなり反発しましたが、結局は、平塚の「キボウ荘」に入所し、4年後身体を壊して退所してからしばらく家で療養していました。

12年間、2つの異なつた養護学校に通つていましたが、同じ年代の健常児とのかかわりはほとんどなく、閉ざされた空間でしか育つてないので、世の中の常識が全然わからないうちに卒業してから、健常者の友人を探すのは、難しいことです。

養護学校の良し悪しは、賛否両論あるかと思います。しかし、子どものころから同じ年代の健常児と共に同じ机を並べ、勉強したり、遊んだりすることがとても大切です。

## インクルーシブ教育と矛盾し、特別支援教育制度を強化する「多様な教育機会確保法案」

東京都・運営委員　名谷　和子

前号に公教育計画学会の「『多様な教育機会保障法案の根本問題』理事会声明」が掲載された。7月12日には、同学会が「多様な教育機会確保法案」の基本的問題を考えようと緊急研究集会を呼びかけ、全国連からは名谷が参加した。

この法案を聞いた時、1979年度から実施された養護学校義務化の時と同じ空気を感じたのは私だけではないだろう。「どんなに重い障害の子にも教育の機会を！」ということだけを聞けば、そうだと思う人がほとんどだろう。私もそうだった。でも、義務化によつて、